

研究室名	生殖発生生物学研究室 論文発表
------	-----------------

発表時期	2021年3月
題名	Absence of X-chromosome dosage compensation in the primordial germ cells of Drosophila embryos.
掲載雑誌	Scientific Reports 11, 4890 (2021)
著者	<u>Ryoma Ota</u> , Makoto Hayashi, Shumpei Morita, Hiroki Miura, and Satoru Kobayashi (本学教職員にはアンダーライン)
概要	ショウジョウバエは、ヒトと同じように、X染色体を一本だけ持てばオス(XY)に、二本持つとメス(XX)になります。体細胞では、遺伝子量補償と呼ばれる機構により、X染色体上の遺伝子の発現量をメスの2倍とすることで、X染色体上の遺伝子の発現量をオスとメスで等しくすることが知られています。本論文は、生殖細胞のもとになる細胞(始原生殖細胞)では遺伝子量補償が働かず、オスとメスの始原生殖細胞でX染色体遺伝子の発現に2倍の差があることを見出しました。本研究は、筑波大学との共同研究により実施され、生殖発生生物学教室では、トランスクリプトーム解析等を担当しました。